

(様式1)

令和6年度 学力向上を図るための全体計画

学校名	墨田区立第三吾嬬小学校
校長名	川中子登志雄

1 本校の学力に関する状況

(1) 墨田区学習状況調査結果から

成 果	課 題
<ul style="list-style-type: none">・標準スコア52.0以上を達成した学年教科は、17教科中6教科であった。また、17教科中10教科は、標準スコア50.0以上を達成した。・算数に関しては、全学年、標準スコア50.0以上を達成することができた。・3、5年は、全教科、標準スコア50.0以上を達成することができた。特に、研究成果の顕著な5年生には、経年での大きな伸びがみられる。・観点別全51項目のうち、目標値と全国平均を超えたのは、29項目であった。	<ul style="list-style-type: none">・標準スコアが50.0に達していない学年教科は、2年算数、4年国語・社会・理科、6年国語・社会・理科であった。・4、6年の社会と6年の理科に関しては、全観点で目標値及び全国平均に到達しなかった。また、4年の理科と6年の国語は、2観点において目標値及び全国平均に到達しなかった。

(2) 意識調査結果から

成 果	課 題
<ul style="list-style-type: none">・3、5年の「対話・話し合い」「学級の規範意識」が標準スコア52.0以上となり、「社会性」や「学級環境」のカテゴリーが高い数値となった。・2年は、全ての項目で昨年度よりも高いスコアとなった。	<ul style="list-style-type: none">・「生活習慣」「学習習慣・意欲」の項目は、3年以外が標準スコア50.0以下であった。・4年は、「学級の規範意識」以外の項目は、標準スコア50.0以下であった。・4、6年は、「自己認識」のカテゴリーが低い数値となった。

(3) 墨田区学習状況調査や意識調査以外から明らかになっている学習に関する状況

成 果	課 題
<ul style="list-style-type: none">・全国学力学習状況調査では、国語と算数の2教科とも全国平均正答率を上回った。・算数では、「データの活用」を除き、全領域、観点、問題形式において全国平均正答率を上回った。	<ul style="list-style-type: none">・国語と算数の2教科とも「短答式」や「記述式」の正答率が低い傾向にある。・国語は、「知識・技能」と「思考・判断・表現」の「読むこと」において全国平均正答率を下回った。

2 本年度の学力向上に関する主な取組

(1) 主体的に課題解決に取り組む「学び方」の定着

- ・ 校内研究のテーマを「児童の主体性の育成」として、「教科学習 (Subject)」と「総合的な学習 (Project Based Learning)」の2部会を構成し、児童が学習の主体となる学習研究等を通して改善を進める。
- ・ 児童にタブレット端末を、鉛筆やノート、教科書、辞書のような学習の「道具」として日常的に活用させ、学習意欲の向上を図り、他者との交流に主体的に関わるようにさせる。
- ・ タブレット端末の機能を、思考を整理し深める道具として活用させることで、課題解決のプロセスとしての児童の思考パターンの定着を図り、学習過程に見通しをもたせる。
- ・ 「自学のすすめ」(家庭学習を進めるためのリーフレット)を作成し、児童が主体的に学習に取り組む習慣を身に付けさせる。

(2) 学力向上部を中心にした組織的な「振り返り学習」の徹底

- ・ 学力向上部が策定する「学力向上計画」に基づいて、適切に「ふりかえり期間」の取組内容を実施する。今年度1月の取組では、全教科の振り返りを重点とする。
- ・ 「Web 支援システム」の情報を活用し、適切な「ふりかえりシート」を厳選して、児童が家庭学習等の課題として取り組めるようにしたり、学習時間内で取り組み児童自らが自分の学習定着を確認したりできるようにする。
- ・ Teams を活用し、「すみ研チャンネル」を設置し、すみだ教育研究所からの情報を適切に周知・活用する。また「学力向上チャンネル」で、学力向上の取組について共通理解を図る。
- ・ 1月に全学年で学力調査を実施し、その結果を分析し、3月の「学習ふりかえり期間」において指導の重点を明確にした取組を進める。
- ・ 家庭学習の補完教材として「ミライシード」等、ICT教材の有効活用を図る。

(3) 個に応じた学習支援

- ・ 学習支援指導員及びSST(スクールサポートティーチャー)を、3年生以上の算数習熟度別指導下位グループに週5時間程度配置し、D層E層の児童に対する個別の支援を充実させる。また、1年生は各クラス週3時間程度、2年生は各クラス2時間程度学習支援指導員、SSTを配置し、D層E層の学習支援に当たる。
- ・ 上記の支援についての記録を取り、各担任と支援者が連携することにより有効な手立てを共有する。
- ・ C層児童を対象にした「放課後すみだ塾」では、各学年の学力向上委員会を中心に適切な学習課題を選定して学習に取り組ませることで、基礎的基本的事項を定着させるとともに、担任とSSTが連携して学習意欲の向上を図る。

3 「令和7年度 墨田区学習状況調査」における目標

(1) 目標

- ・ 全ての教科と意識調査項目を標準スコア50.0以上にする。
- ・ 全学年、全教科の観点別全51項目のうち、全項目で目標値と全国平均正答率を超える

- ・ 現在行っている学習時間の抜本的な改革により、児童が主体となる学習スタイルを定着させる。児童が主体的・対話的に学習の課題解決を図る経験を日々の学習時間に積みせると同時に、教師と共に行う「チェック」機能をシステム化し、児童自身が自らの課題を把握し、それを解決しながら目標を達成できるようにさせる。
- ・ 今年度は標準スコア50.0未満の教科は延べ17教科中3教科から7教科に増加した。7教科中、4年と6年が3教科ずつ標準スコア50.0未満なので、特に4年の学習内容の振り返りを重点的に行っていき、次年度こそは全教科を50.0以上にしたい。意識調査項目では、特に自己肯定感や社会性の数値が低かった。主体性の育成に向けた取り組みをさらに充実させ、自分に自信をもち、友達との関わり方を学べるようにしていく。
- ・ 観点別の項目で目標値及び全国平均を超えたものは、昨年度は51観点中38観点であったが、今年度は51観点中29観点と減少した。4年の社会及び理科を強化することで、全項目全国平均値及び目標値超えを達成したい。